

国際ロータリー 会長が鳥栖訪問

ブラジル大会をPR

鳥栖市

世界200
カ国に約12

0万人の会員がいる国際ロータリーの現会長、ゲイリー・CK・ホアンさん(70)台湾が25日、鳥栖市を訪れた。市内のロータリー会員らと交流を深めたほか、6月にブラジル・サンパウロで開かれるロータリー国際大会をPRし、「世界の絆を結ぶ大会になる。日本からも大勢参加して」と呼び掛けた。

大会は世界の主要都市を巡回して毎年開催。今回のサンパウロ大会では、鳥栖ロータリークラブの大島英



二さん(82)鳥栖市養父町が、世界で13人しかいない推進委員に選ばれており、大島さんと14年前から親交のあるホアンさんが同クラブの創立40周年記念式典に合わせて来日した。メンバーと一緒に鳥栖駅東口広場に八重桜などを植樹し、交流を深めた。

ホアンさんは台湾で保険・金融会社を経営する一方、社会奉仕を追求するロータリーの指針に共感し、35年にわたって活動に情熱を注いできた。サンパウロ大会については「各国から2万5千人が集う。昨年のサッカーW杯、来年の五輪と同じように世界を盛り上げ、相互理解を深める機会になる」と話した。

植樹のほか記念碑の除幕などもあり、鳥栖ロータリークラブの本島勝章会長や橋本康志市長ら約100人が出席。鳥栖商高の吹奏楽部とインターアクト部の生徒たちが運営に協力した。

(杉原孝幸)

鳥栖ロータリークラブの創立40周年記念式典に参加した国際ロータリー会長のゲイリー・CK・ホアンさん(中央)鳥栖市の鳥栖駅東口広場